

今回の登録美術品について

- 1 所有者：個人
- 2 登録日：平成29年1月25日
- 3 公開美術館（予定）：東京国立博物館（東京都台東区）
※公開のスケジュールは同館において決定されます。
- 4 登録美術品の概要：

登録番号	美術品の名称	種類	制作時期	員数
72	しほんぼくかかんざんじつとくず 紙本墨画寒山拾得図	絵画	室町時代 (14世紀)	2幅

【登録番号72】

作品名： 紙本墨画寒山拾得図

員数： 2幅

法量・形状等： 掛幅装， 寸法 各88.7cm×34.0cm，

制作時期： 室町時代（14世紀）

制作者： 伝 可翁

説明：

本作品は、道釈人物画を多く遺す可翁筆と伝えられる作品で、寒山と拾得を各幅に描く。可翁（生没年不詳）は14世紀前期～中期頃に活躍したと推定される画人で、我が国の初期水墨画を代表する存在である。その実体は不明で、禅僧・可翁宗然であるという説や、名の一部に「賀」を用いる詫磨派の絵師であるとの説などがある。

寒山・拾得は、中国の唐代に天台山国清寺に住んだ伝説の人物で、奇行に満ちた脱俗の人物として、禅宗の画僧が好んで画題とした。

本作は、崖下に立ち、手に広げた巻物に視線を落とす寒山と、樹下で横向きに立ち、爪の伸びた手を胸前で合わせる拾得を、各幅に墨のみで描く。拾得の足下、図右下には箒が立て掛けられている。可翁筆とされる寒山拾得図は複数知られるが、本作の拾得図は、国宝指定本やフーリア美術館所蔵本の寒山図と近似する図様である。

寒山・拾得ともに敝衣蓬髪で、上衣の衣文線は濃墨で簡略に描かれ、腰蓑や樹木・崖は淡墨を用い、粗い筆致で描かれる。面貌は細線で描き、外暈が施される。細い目元は怪異な印象を与える。また、「可翁」「仁賀」の朱文方印は、寒山図は図左下に、拾得図は図右下に捺されている。

本作品は、我が国の初期水墨画の作例として貴重であるとともに、実体の明瞭でない可翁を考える上でも重要な資料である。

(寒山图)



(拾得図)

